

平成29年 6 月定例会 経済委員会（付託）

平成29年 6 月 26 日（月）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

岩佐委員長

ただいまから、経済委員会を開会いたします。

直ちに、議事に入ります。

これより、商工労働観光部関係の審査を行います。

商工労働観光部関係の付託議案については、さきの委員会において、説明を聴取したところではありますが、この際、理事者側から報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【報告事項】

- とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについて（資料①）
- 株式会社コート・ベール徳島の経営状況について

朝日商工労働観光部長

2点、御報告させていただきます。

1点目は、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについてでございます。

事前委員会での御論議を踏まえ、去る6月20日、とくしまLED・デジタルアートフェスティバル実行委員会の企画運営部会を開催し、お手元にお配りしているとくしまLED・デジタルアートフェスティバル基本計画案を決定したところであります。

お手元の資料、1ページを御覧ください。

まず、主催は、とくしまLED・デジタルアートフェスティバル実行委員会、とくしまLED・デジタルアート推進協議会、徳島県、徳島市とし、開催日程として、平成30年2月9日から10日間、エリアとして、県が主体的に取り組む万代倉庫、県庁エリアなどにおいて、基本方針として、LEDにデジタルアートを融合することにより、レベルアップを図り、新たな文化の創造をはじめ、四つの方針のもと実施することとしております。

また、実施内容のうち、シンボルアート作品展示について、エリアごとに1作品ずつ、計4作品展示することとし、幅広い年齢層を対象とし、国内外からの観光客誘致が見込める作品をはじめ、四つの条件を満たす作品を広く募集提案を行った上で、厳正な審査により決定すること。イベントについては、子供らを対象としたアートづくりのワークショップや公募によるライブパフォーマンス等、にぎわい創出につながるイベントを実施することとしております。

2ページを御覧ください。

エリア間の移動については、移動手段の充実を図るとともに、広報について、誘客を推進するために、県外、国外向けに重点をおいた広報を展開することとしております。

さらに、収支予算案について、収入として、県、市の補助金、協賛金を合わせ、計1億6,500万円、支出として、昨年のフェスティバルの実績等をもとに積算し、作品展示等で1億2,000万円、運営費で2,000万円、広報事務費で2,500万円、計1億6,500万円としてお

ります。

今後、補正予算案をお認めいただいた後、基本計画として、8月上旬に開催予定の実行委員会に報告されることとなっております。

2点目は、株式会社コート・ベール徳島の経営状況についてであります。

資料は配付させていただいておりませんが、第三セクター方式による株式会社コート・ベール徳島の平成28年度決算につきましては、今定例会の開会日に地方自治法第221条第3項の法人の経営状況等を説明する書類により御報告させていただいております。

その概要でございますが、平成28年度の利用者数は、過去最高であった前年度には及びませんでした。例年並みの46,516人となり、当期純利益は約3,431万円となっております。引き続き、御指導をよろしくお願い申し上げます。

報告については以上でございます。

よろしくお願いいたします。

岩佐委員長

以上で、報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは質疑をどうぞ。

岡田委員

まず先ほど説明いただきました、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの予算の件なんですけど、基本方針は大きな四つの柱があるということであったんですが、広報に関して、「子供たちが先端技術に触れる機会を創出することにより、若い世代を中心に科学技術への興味を醸成」という文がありました。今の広報とは、子供たちに対して改めてどうされるんですかっていう点、それとこの一般展示は、これから公募して選ばれていうお話だったんですけれども、その中であって、どういうふうなものを作ってほしいという意向は、はっきり伝えてほしいなっているのがあるので、やっぱりこの目的の四つは必ずできるような意向を伝えて選定してほしいと思います。それと子供たちが先端技術に触れるというのは、当然もう子供たちにとって、身近に触れられる機会を県内で作ってくれるということで、非常に望ましいことと思いますので、是非このあたりも重点的に、今徳島県内においても川口ダム湖の所とか、何点か展示されてますし、文化の森総合公園でもあります。それ以上にこの2月の機会が、創意工夫っていうもう一つ踏み込んだ、子供たちが何か直接得られるような、体験できるような、充実したものを是非お願いしたいと思います。

それでない、わざわざその期間にすることの意味がないと思うし、それによって、徳島県内に住む子供たちや、近隣の京阪神の子供たちも是非来てほしいと思うんですけど、そういう方たちが、徳島に行ったら最先端技術がすぐに見えるんよっていうことで、誘客にもつながるような取組を是非お願いしたいと思います。

それともう一つ、海外に向けてという話があるんで、海外に向けてもしっかりとPRしていただくとともに、多言語発信をするっていうことと、内容を充実したものにして、また、徳島ってすごいですねっていう感想を持っていただけるように。エリア間の移動バス

というのもありましたので、団体で来る方は移動っていうことはあんまり考えなくてもいいんでしょうが、外国からのインバウンドの個人で来られるお客さんも大分増えております。徳島県に来た方が、これを見に来て、周遊ルート、周遊バスというのが分かりやすく乗りやすかった、活用しやすかったって、外国人のみならず日本人もそうなんですけど、いろんなところから来てくださった方が、そういうふう感じて、また徳島に行きたいよ、今度、夏の阿波踊りに来ようねって言ってもらえることにつなげるための、一つだと思っておりますので、やはり、中身の充実と言いますか、今までにないものの発信っていうことに是非重点を置いて、取組を強化していただきたいと思いますがいかがですか。

黄田観光政策課長

とくしまLED・デジタルアートフェスティバル関係の質問を何点か頂いております。

まず広報の関係でございますけど、今回、今御説明させていただきましたけど、国内外から誘客を進めていくということで、力を入れていきたいと考えております。その中で、ウェブサイトでありますとか、ポスター、チラシ等によりまして、できるだけ多くの方に来ていただくという形で考えておりますけど、今委員からお話がありましたように、子供たちにも関心を持っていただけるような形で、工夫をしていきたいと考えております。

それから、展示内容でございますけど、シンボルアートの作品につきましては、先ほどの基本方針のもと募集をしていきますけど、その条件といたしまして、幅広い年齢層を対象として、国内外からの観光誘客を見込める、それからまた双方向で、参加できるようなデジタルアートの作品の募集をしていきたいと考えております。その中でやはり子供たちの先端技術に触れる機会、この点も十分に考慮いたしまして、募集提案を行ってまいりたいと考えております。

それから、エリア間の移動につきまして、今回、二つのエリアから四つのエリアに拡大されるということで、周遊性の向上については、重点的に考えていきたいと思っております。その中で、例といたしまして、巡回バス、それから周遊船、レンタサイクルとかを挙げておりますけど、そのそれぞれの移動手段が、県外や国外から来られた方につきまして、十分に利用していただけるような形での案内等も力を入れていきたいと考えております。

それから、インバウンドの関係ですけれど、特に外国の方が来られて、Wi-Fiの整備については徳島市さんがやっておるんですけど、そのあたりのWi-Fi環境についてもですね、エリアが拡大されることから、整備も考えてまいりたいと思っております。

戸川国際課長

インバウンドの対策について、補足説明させていただきます。今回の期間設定がですね、2月ということで春節期にちょうど当たりますことから、たくさんの外国人観光客が来ることも想定されまして、絶好のチャンスと我々はとらえております。ですから、先ほども説明がありましたように、多言語化のチラシ等を作成いたしまして、私たちが海外等に営業活動に行く際にですね、旅行会社等にこのイベントにつきまして、周知を図ってまいりますとともに、昨年度撮った動画とかも、いろんなセミナー等でそれを上映いたしまして周知していききたいと考えております。

それから、外国人観光客が徳島に来まして、迷わないといいますか、きちんと安心して楽しんでもらえますように、観光案内所等に通訳ボランティア等も配置いたしまして、モデルコースとか、アクセス等について観光情報の提供を図って、スムーズな受入れができますように努めてまいりたいと考えております。

岡田委員

ありがとうございます。大分具体的に、その当日とか、期間の動きというか、設営や動線が、県庁の前、万代町から新町川水際公園に向けての動きが、今説明いただいて、大分、分かるようになりました。

そうしたら移動するに当たって、2月のこの開催時間になると、多分もう真っ暗になってると思います。そのひとつレンタサイクル、あと徒歩もありますので、安全確保の意味でも、観光客が何万人か、何千人か、何百人か、その日によってそれぞれ違ってくるかと思いますが、いずれにしても、ケガなく、事故なく、安全に、広域になればなるほど、その部分が一番問題になってきます。今のところは通訳ガイドはあったけど、安全性のための誘導する係というか、ここは暗いから気を付けてくださいっていうような、そういう部分も、本来なら徳島市の街中が歩きやすければいいんでしょうけど、自転車が乗りやすければいいんでしょうけど、ふだんから段差があったり、安全な場所ばかりでの移動ではないと思うので、そういう所を、初めて来られた方が事故なく自転車に乗って周遊できるように、暗い所の安全の確保っていうのは、どのように考えられてますか。

黄田観光政策課長

先ほど周遊性のところで、例としてレンタサイクルを挙げましたが、岡田委員の御指摘のとおり、夜間につきましては、やはり暗い所もございますので、その移動につきましては、十分安全面を配慮するという形で案内係とか、警備の充実等を図ってまいりたいと考えております。

岡田委員

是非その点も配慮していただいて、本当にみんなが楽しく、良かったなということで終わるために、やっぱり事前の準備っていうのは、やり過ぎてると思ってるぐらい準備されてても、当日何が起こるか分からないところもございますので、想定を決めずに、もうできるだけ広範囲に安全対策も、取り組んでいただきたいと思います。そうすることが、このイベントのひとつの成功への鍵になるのではないかと思いますので、そして範囲を広げて、安全に終わったというところが、ひとつの成果につながっていくとも思いますので、是非お願いしたいと思います。

それと外国人の通訳ボランティアのみならず、日本人のボランティアガイドも、是非日本の、地元の方用の案内ガイド、そしてまた子供たち向けの誘導とかで、こういう展示もあるというところも、是非丁寧に説明していただきたいと思います。

というのも、昨年12月の開催時には、ディスプレイはわかるんですけど、詳細について何がどうなっているのか、感性で感じなさいという作品だったのかもしれませんが、余りにも人だかりがあって、遠目に見ているぶんには何をしているのか、よく分からないとい

う部分も見受けました。どこから見てもその作品が理解できるような、それぞれインターネット環境があれば内容が見られるような発信も、是非していただきたいと思います。

それとあわせて、作品をどこから見ても、どういう状況になっているのかっていうのが分かるような、事前告知もしたり、去年は説明ボードもあったようなんですけど、どこもかも、人がいっぱいなので、そういうものに寄っていけないんですね。去年は川だったので、川の中の作品というのは遠目でも見えるんだけど、それがどういう状況で、どういうふうになっているのかっていうのが、感性で理解するっていう部分と、こういうところを表現しているんだっていう部分の説明があったほうが、より理解していただきやすいと思いますので、そのあたりも工夫していただきたいと思うんですけどいかがですか。

黄田観光政策課長

シンボルアートの作品の関係でございますけど、やはり、御来場いただいた方に十分に楽しんでいただくためには、特に双方向になりますと、どういう方法でやれば楽しめるかというところの案内というのは重要だと思います。そこで案内表示でありますとか、実際にその使い方といいますか、それらを説明するようなスタッフも十分配置してですね、皆さんに分かりやすく楽しんでいただけるようなことを考えてまいりたいと思っております。

岡田委員

安全に気を付けて、そして子供たちが実体験できる場として、このとくしまLED・デジタルアートフェスティバルが開催されるということで理解させてもらいました。ただ実行委員会が8月にしか開かれないっていうような話だったら非常に気に掛かるんですけど、6月に開かれて、8月ってことは毎月じゃないんですけどいかがですか。

黄田観光政策課長

実行委員会につきましては、直近で5月2日に開催されまして、開催日程でありますとか、具体的なエリア、方針等について決定をしたところでございます。それから、先ほど部長のほうからも御説明いたしましたけど、今回は基本計画案という形で、実行委員会の企画運営部会を開催しまして、それで具体的なシンボルアートの内容でありますとか、収支予算等について、決定をしていただいたところでございます。今後は、実行委員会につきましては8月中旬頃という形で開催を予定しておりますので、そこでまた詳細な計画につきましては、補正予算をお認めいただいた後に、計画としてその実行委員会のほうに報告いたしまして、それでまた検討してまいりたいと考えております。

岡田委員

補正予算を活用してまでされる事業ですので、是非実行委員会も、グループ委員会とか、その全員が集まらなくても役員らが集まったというお話はありました。実行委員会の決定権を持っているのが、その実行委員会ですので、やはりその実行委員会を是非定期的に毎月1回でも、メンバーを見たら非常に厳しいかと思いますが、開いていただければいいと思います。

でもそれはまた、別の問題でして、やはり補正予算を出してまで開催するっていうこと

は、その実行委員会にとっても、その分の責任を感じながらこのイベントを成功させる覚悟をもって、是非取り組んでいただきたいと思いますので、そのあたりの検討を是非お願いしたいと思いますがいかがですか。

福田商工労働観光部次長

ただいま、実行委員会での議論を、補正予算までするのだからしっかりとやるようにというふうなお話を頂きました。今後、補正予算をお認めいただければ、様々な形で実行委員会としても、しっかり議論する場を設けていきたいと思っております。

岡田委員

是非、より良いものを生み出すための実行委員会さんだと思いますので、その皆さん方の知恵を絞っていただくとともに、より良い決定ができるような組織運営を要望いたしたいと思います。

それでは、次の質問なんですが、4月20日から26日まで、ニュージーランドのオークランドのほうに行かせていただいております。先般、この関西広域連合からの報告が、各議員さんの中には配られていたと思うんですけども、2021年に関西ワールドマスタースゲームズ2021が開催されます。それで今回のこのオークランド大会っていうのは、ニュージーランドの中でもオークランドだけでの都市開催だったんですけども、今度2021年は関西広域連合で開催されるという予定になっておりまして、徳島県もその開催競技っていうのが決まっているので、そのあたりを重点的に視察させていただいてきました。その運営は各競技団体、開催する市町村、そして県との運営になっていこうと思うんですが、その関西広域連合が、もう一つ言っているのが、広域観光もかねてこの大会を開催したいっていうような意味合いでも位置付けております。私も3月まで関西広域連合議員もさせていただいて、その中にあってもやはり、そこの部分がキーワードになっていました。今回のニュージーランドのオークランド大会で、知事も言ってましたが28,000人の集客があったという話で、関西広域連合では、その倍以上の人数を目標に開催を目指しているところなんですけれども、その中にあって、徳島県が開催するのが、ウエイトリフティングとゴルフとカヌーとなっています。それで、私の地元鳴門市では、ウエイトリフティングがもうアミノバリューホールで開催するのが決定しているようで、それも目的に見させてもらいに行っていたんですけども、そこで一つ問題に思ったのが、やはり先ほども周遊のルートの話で、バスを出すとか、船をとというお話がありました。広域交流で関西広域エリア全域と徳島県をつなぐ観光誘客という方法を、是非考えていかなければならないと思いますが、そこが問題になると思います。

それで実は、その関西ワールドマスタースゲームズの始まる前には、当然オリンピックがあつて、今度はこれ東京を目指してくる参加者や観光客を、徳島にどう誘客するんですかという問題点、そしてもう一つ前の2019年にはラグビーの世界大会があるという、2019年、2020年、2021年と大きな世界大会が、日本で開催されるっていうことになっているんですけど、それに向けての取組は、今のところはどのように準備されているんでしょうか。

戸川国際課長

ただいま岡田委員から、世界大会についての観光誘客についての御質問を頂いております。まず、関西ワールドマスタースゲームズにつきましては、2021年開催ということで本県も5競技6種目が開催予定でありまして、今も予定ですと4,000人を超える参加者が見込まれるということを聞いております。今後ですね、今回のこういったイベントにつきましては、非常に本県にとってはチャンスであると認識しておりまして、特に関西ワールドマスタースゲームズにつきましては、参加者だけでなく観光をかねてその友人だとか家族とかも一緒になって参加したり観戦をしに来るというふうなことが、これまでワールドマスタースゲームズを開催した地方におきまして見参されているところでございます。

そういったところを利用いたしまして、本県といたしましては、関西全体で行われるということで、これはまさしく関西広域連合の取組と一致しているところでございまして、また、各府県の利益を越えた戦略的な取組を関西広域連合がやっております。

その関西地方の持つエリア全体の魅力、都市的魅力だとか、伝統文化などの、大阪、京都、奈良とかの文化、魅力などとともに、徳島ならではの魅力を組み合わせた観光ルートの設定や観光プロモーションを積極的に実施してまいりたいと考えております。特に、徳島におきましては、その開催地が県南地域だとかですね、県東部鳴門地域のほうにありますので、徳島県の海、それから阿波踊りとか、藍染めや本県が誇る自然と歴史文化、こういったものを観光コンテンツに、多くの参加者に楽しんでもらえますようにですね、事前に手配する旅行会社等に積極的に徳島県の観光ルート等をオプションルツアーだとかに、営業に回るとともに、ウェブサイトやSNSの活用によりまして、幅広く発信していきたいと考えております。

それからラグビーの世界大会、それからもちろん東京オリンピック・パラリンピックにつきましても同様のことが言えますので、この関西ワールドマスタースゲームズに限らずですね、ラグビー世界大会からこのような取組によりまして観光誘客を徳島に取り込んでいきたいと考えております。

岡田委員

是非そういう取組をしていただきたいということになります。やっぱり2019年は、余り時間ありませんよね。それで実際、今大阪は、史上最強のインバウンドの数を誇っていることと、テレビで和歌山県さんが、非常に観光インバウンドの戦略に成功してるとやっていた。実際その関西圏には、関西国際空港にLCCが入るようになって、関西国際空港のにぎわいっていうのは史上最高やというようなお話を聞いているんですけど、実際そのすごいにぎわいと、あと心齋橋に行ったときのあの外国人の数っていうのと、じゃあ徳島県内に実際どれだけのインバウンドの方が来ているかっていうのを実感することがあるんですけど、実際うまく誘客ができていないとは思えないんですね。そこにあって、関西の外国人観光客の人たちをいかに呼び込むのか。先ほど呼び込めるように徳島ならではのPRをしますというお話でしたけど、じゃあそれは何なんですか。

戸川国際課長

徳島ならではのPRの仕方と、インバウンドの対策についての御質問でございます。こ

れまでも徳島県に外国人観光客の方もおいではなっているんですけども、そのまま素通りして、なかなか滞在してもらうとこまでいってないというところも感じております。なので今年度は、特に来県者の多い香港や台湾に宿泊業者と一緒にですね、徳島県の宿泊施設はこんなところがあるんだよとか、それからその宿泊施設を活用した観光ルートはこういったものがあるんだよとかをですね、海外の旅行事業者や観光事業者に説明をいたしまして、徳島県に滞在してもらおうということを、特に重視して図ってまいりたいと考えております。

岡田委員

47都道府県中で宿泊者数が47位になってしまった徳島県としては、是非先ほどおっしゃったように、宿泊業者と一緒にね、宿泊者数を増やしていけるような取組をお願いしたいんですが、今までもそう言って、宿泊者数を増やすことが本当にはできているんでしょうかね。外国人誘客の方は少し増えてきて6万人にはなったというような話だったんですけど、本当に問題なのは、宿泊をしてもらうために、じゃあどういうルートを作らなければいけないのかということです。どんな旅行ガイドブックを見ても、その1日周遊のモデルルートを、大体出してるんですよ。それで2泊3日だったらこんなルートでここを周遊して、ここで宿泊できますというルートがあって、大体そういうの見ながら旅行計画を立てたりはするんです。だから具体的に徳島県でどういうところを見て、どういうふうに周遊できますというような情報発信は、今まで行ってきたのでしょうか。

戸川国際課長

これまでの観光ルートの営業のやり方等について質問を頂いておりますけれども、我々商工労働観光部といたしましては、海外に行く際に徳島県にモデルコース等を設定いたしまして、例えば関西国際空港から、徳島県を通過して、外国人の方は徳島県だけを観光するというような方はまれでございますので、幅広く周遊される方が多くございます。なので、関西国際空港に入ってから3泊4日や4泊5日のルート等、数多くいろんなパターンを想定いたしまして、そのモデルコースを旅行会社等に説明して回っているという状況でございます。

それから、個人向けにつきましては、ホームページやSNS等で徳島県のいろんな魅力を随時発信しているところでございます。

特に今年度、更にこの観光誘客を増やさなければいけないということをいろいろ御提言も頂いておりますので、これまでのパンフレットが少し陳腐化しているところもありますので、刷新いたしまして海外の方が見やすく、それから関心を持ってもらえるようなパンフレットに刷新をすることで、広く周知していきたいと考えております。

岡田委員

いろんな努力を重ねてこられていますが、きつい言葉で言いますと実績が上がってないようにしか見えないので、やはりそこのところは一つ工夫をしていただく必要があるのかと思います。

それと先ほどのパンフレットですけど、せっかくさっきのとくしまLED・デジタル

アートフェスティバルのところではW i - F iを整備するという話があったんですけど、最近久しぶりに英語圏のニュージーランドに視察に行かせてもらって、皆さんが情報を得るコンテンツにi P h o n eというか、携帯で探していました。同行した、執行部の方がモバイルルーターを借りてくれていたので、私たちもそこでW i - F iを利用させてもらいました。マスターズゲームズの施設の情報説明や明日のスケジュールとかっていうのが全てインターネットで配信をされてたんですね。

ということはもう本当に、今言ったような紙媒体のカタログやパンフレットだけではないと思います。SNSでも動画が入っていなかったら、いいねの数が少ないようになってまして、しかもその動画の時間は短くて、何秒か何十秒かでうまく表現できるようなものがすごい反応がいいとか、こういうふうに関係がどんどん進んでいってるとともに、もう小学1年生のなりたい職業がユーチューバーなんで、そういう時代にあってどう発信していくかっていうことは、先ほどのデジタルアートの先進県を目指している徳島県としては、もう少し工夫をされて、整合性のあるような取組を是非していただきたいと思うんですが、そのあたりはいかがですか。

戸川国際課長

情報発信の在り方について質問を頂いております。正にそのとおりでございまして、いかにその情報を見てもらえるかというところが非常に大切なところでございますので、SNS等々の情報発信の際には、その点をしっかり踏まえまして情報発信に工夫を凝らしてまいりたいと考えております。

岡田委員

関西ワールドマスターズゲームズの開催される2021年以降が本当の課題というか、来てくれた観光客の数を減らさずにどれだけ維持し続けていけるのかがこれからの正念場の企画と、それと長中期的なビジョンを持つての県の取組というところでの判断になってこようかと思います。いろんな情報を得ながら、是非関西広域エリアでの交通方法であったり、宿泊施設であったり、飲食店というような情報発信に計画性を持って、そしてまた分かりやすく、そしてインバウンドでしたらそれぞれの国によって嗜好が違いますので、それぞれの国のターゲットに合わせた観光地であったり飲食店であったり宿泊施設の情報発信を的確にさせていただくことによって、無理なくその誘客が増やしていける可能性が高まるのではないかと思います。例えば先ほど言った香港や台湾の方、それぞれ皆さん嗜好が違いますので、甘いものが好きな人と辛いものが好きな人とおり、辛いものが好きな国の方には甘いものばかりを発信しても全然売上げにもつながらなければ、気に入ってもらえないので、相手国のターゲットを絞って、それぞれ取り組んでいくには、その事前リサーチは絶対必要になります。是非そのあたりも踏まえながら、時間があるといってもないですので、早急に取り組んでいただきたいと要望させていただきます。

前に鳴門市で統合型リゾートのカジノの勉強会がありまして、岩屋衆議院議員がおいででしたが、ひとつお話を聞いていた中で、先ほどもサービス業の話が出ていたんですけど、岩屋議員出身の大分県は観光産業が基幹産業になっているという話だったんですけども、今いろんな従来の産業がそれぞれサービス業に変わってきてるんですけど、そのサ

ービス業に変わったときの所得が、前の産業に従事してたときよりも下がってるんですねというお話があったんです。

それで、やはりそのサービス業、観光業、そしてまたそういう業種の賃金が上がっていきけるような取組もしていかなければいけないという中に、カジノが必要ではないかというお話だったんですけれど、そのカジノに関する法案が今、通りつつあるんですけど、県としては法案が通ったらっていうようなところだったんです。整備する自治体が決定してからでないとい県は余り反応がないというのは重々承知の上での質問しているんですけども、今後どのような展開を考えていますか。

戸川国際課長

ただいま、統合型リゾートの関係について質問いただいております。統合型リゾートの関係につきましましては、賛否両論があるところでございまして、一つの面では、観光が期待できて経済効果がかなり期待できるというところがいい点でございまして。逆に青少年の育成の問題だとか、ギャンブル依存症の問題、それからマネーロンダリングの問題だとか、犯罪につながる問題等が、デメリットの面であるというところでございまして、国もかなり慎重にこの件については動いているようでございまして。

ただ先般ですね、この特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（ＩＲ推進法）が成立して施行されたところでございまして、これを実際にどうやって実施していくかという実施法案につきましましては昨年12月のＩＲ推進法決定以降、大体1年間をめどに作成するという予定だと聞いております。

その実施法案が決定した以降、どこにカジノを誘致するだとか、そういうのが決まってきました、そこで実際にいろいろと環境アセスメントだとかそういったことをいろんな考慮をしていって、話が進んでいくものと思われまして。そして、そこからまた建設ということになってくると思いますので、実際にカジノが日本でできるのは、ここ3年か4年ぐらいはかかるだろうと私たちは考えておりますけれども、いずれにいたしましても県としましては、今の国の動向を見極めて対応してまいりたいと考えております。

岡田委員

まだ実施法案のところは作成中というところもあるので、その動向を見守る必要はあると思うんですけど、観光において国は2030年には15兆円産業を目指すという話もあります。インバウンドで4,000万人という大きな目標も含め、それと先ほど言われたその2,3年後っていうのがちょうどオリンピックなどの世界大会が日本で開催される時期と重なるっていうことと、それともう一つ関西広域連合で大阪府さんが一生懸命言ったのは2025年の万博に手を上げるっていうお話もありましたので、非常に大きな世界大会の話とともにこの歩みというようになっていくのかというふうに私も感じております。今後、国の動向を見ながら、次のタイミングで質問をさせていただきます。今日は、日曜日にその話を聞いたところであつたので、どんな状況で思われてるのかというのをちょっとお伺いしたかったわけです。

岩丸委員

私からも、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについて、先ほどの岡田委員の質問にも関連して、何点か質問させていただきたいと思います。

実行委員会のスタッフ運営部会からの、基本計画案の報告をお受けしたわけなんですけれども、その中で、2ページ目の収支予算案の支出のほうに作品展示等ということで、1億2,000万円という支出の予算が計上されております。

これにつきまして、芸術作品と言えはあれですが、絵画とかもそうですが、幾らになるのかというのが、私も素人なので、よく分からないところではあります。このLEDのデジタルアートというのは、こんなにかかるのかなあという気がいたしております。

例えば、規模にもよるのかとか、いろいろ考えるわけですが、機械設備に相当かかるとか、そういった作家というかクリエイターですかね、その方のアイデアとか才能にかかるのかとか、非常に分かりにくいところがあるんですが、これについてどういったことか、少し説明を頂けたらと思います。

黄田観光政策課長

ただいま、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの関係のシンボルアート作品の御質問かと思えます。このシンボルアート作品につきましては、フェスティバルの目玉でありまして、特に国内外からの観光誘客を図る上で、非常に重要な役割を担ってるものと考えております。このため、幅広い年齢層を対象として、国内外からの観光客誘致が見込める作品、それからまた、インタラクティブなデジタルアート作品等の条件を付けて、広く募集提案を行って、厳正な審査の上、決定してまいりたいと考えているところでございます。

そういうところで、積算の根拠といたしましては、昨年、徳島市が実施されております、このフェスティバルのシンボルアート作品が3作品で、それが約1億円ということでございましたので、1作品あたり平均の制作費が、約3,000万円という形で、今回は4エリアで四つの作品を展示するというので、1億2,000万円と積算をさせていただいているところでございます。

岩丸委員

分かりにくいところではあるんですが、そういうものなのかなと。例えばその規模によっては、幾らかかるか分からないような、何億円かけてもできるだろうし、これぐらいでもできるとか、いろいろある中で、去年と比較して、そういったぐらいの規模ということで、積算したというふうに思うわけなんです。例えば、この作品の公募とか審査等の具体的なスケジュールは今後どうなっていくんですか。また、そういった作品を制作している、公募の対象になるような業者というのは、何社ぐらいあるものなのでしょうか。

黄田観光政策課長

このシンボルアート作品の募集の関係のスケジュール等でございますが、今回の補正予算をお認めいただいた後、直ちにこの募集に取り掛かりまして、今後、審査委員会での厳正な審査の上、できまして8月のお盆前までには決定をしていきたいというスケジュールで考えているところでございます。

それから作品等を制作している会社でございますけど、現在、私どもで把握をしているところ、国内のデジタルアート制作会社につきましては、4社程度というところでございます。

岩丸委員

国内4社ということではありますが、できるだけ様々なところに広告していただいて、そして、いろんな提案を挙げていただいて、そのテーマにあったようないい作品が審査の対象に反映できるようにしていただけたらと思います。

また先ほど、実行委員会の話もあったんですが、審査委員会で8月中旬ぐらいまでにある程度決定した分を、また実行委員会に報告する格好になるんですね。

いずれにしても、昨年も来場者が、相当多かったというふうにお聞きはしております。今回のイベントについても、国内外からの誘客をしたいというようなことでございますが、具体的な目標っていうんですかね、テーマについての目標は先ほど岡田委員からの質問にもあったかと思いますが、例えば人数的な目標といったようなことも、しっかりと掲げて取り組むべきと思うんですがどうでしょうか。

黄田観光政策課長

集客等の目標の関係でございます。昨年のフェスティバルにおきましては、10日間で約32万人の方に御来場いただいているところでございます。また、アンケート調査の結果、来場者の居住地が、県外の方が5.9%、それから国外の方が0.3%という結果も出てるところでございます。

今回は、昨年を上回る来場者数となるよう、また県外、国外の方の割合を高めるよう、取り組んでまいりたいと考えております。また、目標設定については、非常に重要なことと思っておりますので、今後、実行委員会におきまして、目標設定するように強く提案をしてまいりたいと考えております。

岩丸委員

昨年在10日間で32万人といたら1日平均3万2,000人、これは相当な数だと思うんですが、それを上回るような目標ということで、いずれにしても、いろんな方法を使って、正確な数字をしっかりとつかんでいただきたいと思います。

これと並行して実行委員会の透明性を確保するためには、こういった我々県議会に対して、市議会もそうなんだろうけれども、収支決算と目標達成度合いについて報告すべきと考えております。

そして、このイベントについての検証とか評価をやるべきと考えておりますが、どうお考えでしょうか。

黄田観光政策課長

今回のフェスティバルの開催に当たりましては、補正予算案を提案させていただいておりますけれど、県民の貴重な県費を使用して実施しているということを常に認識いたしまして、実行委員会におきましても、適正な予算執行が確保されるよう、十分チェックをし

ていくとともに、収支決算等の状況につきましては、議会のほうに報告をしてまいりたいと考えております。

岩丸委員

是非お願いしたいと思います。またそれとですね、徳島市は継続して、次年度以降も開催という意向でございますが、県としてのお考えもお聞きしたいと思います。例えば、この検証と評価が思わしくなく、これはもうどうしようもないということになったら、変更もありうるのでしょうか。

黄田観光政策課長

フェスティバルの関係でございますけど、まずは今回のフェスティバルが成功するように、全力で取り組んでまいりたいと考えているところでございます。また、今後の実施等につきましては、今回のフェスティバルの効果等をしっかりと分析をした上で、県議会での御論議等も踏まえまして、様々な角度から検討してまいりたいと考えております。

岩丸委員

是非お願いしたいと思います。特に、県民といいますか、私の身近な方々から、この度の、そういったお金の流れとかいったような問題で、意見を聞いております。

もっと身近な、より必要なところにしっかりと公金は使ってほしい、非常に不満だというような声もよくお聞きをしているところでございまして、そういった中ではあります。が、地方創生を進めるとか、また他地域にはない徳島独自の新たな魅力づくりを行っていくということは必要であるとも考えているところであります。ただし、その費用対効果をはじめ、予算についても議会としてしっかりと検証する必要があるとございます。

特に、今回のいろんな出来事を通じて、議員一人一人が、非常にそういった認識は高まっているんでないかとも思うところでございます。

冬の観光コンテンツということで、期待する声もありますし、実施するからには期待を裏切らないようにしっかりと取り組んでもらいたいと思います。しかしながら、今後のスケジュールであつたりとか、目標設定、また業者決定、そして検証とか評価、それから岡田委員から提案があつた、具体的なその運営についても、基本的には実行委員会が主体となってやるとは思っておりますが、県としてもその委員会に対して、しっかりと参画して、チェックとか申出をしていただきながら、私ども経済委員会への報告も、常に継続をして実施をしていただきたいということを、しっかりと要望をさせていただきたいと思っております。

最後に、朝日部長から、このフェスティバルの開催について、決意をお聞きしたいと思います。

朝日商工労働観光部長

ただいまは、岩丸委員から、その前、岡田委員からも、様々な御提言を頂いたところでございます。特に目標の設定、あるいは事業の検証などについて、それが必要だという御提言を頂いたところでございます。私どもこのフェスティバルの取組についてのしつた激

励というふうに受け止めさせていただいております。

私ども地方創生を進める上で、新たな取組、他の地域にはないような魅力的な取組を行っていく必要も感じているところでございます。冬のコンテンツとして、観光誘客につながるように、県としてしっかりと取り組んでまいりたいと思います。そして、御提案ございましたように、議会にもきちんと御報告をさせていただくと考えておりますので、どうか今後ともよろしく願いを申し上げます。

岩丸委員

是非、よろしくお願いして終わります。

長池委員

余りアートフェスティバルのことを、言うつもりなかったんです。もう先輩がお二人質問されて聞いていたんで、ただ言いにくいこともあるんだろうと思って聞いておりましたが、岩丸委員もおっしゃったように正直すごく高いと思っているのは、多分どの委員も同じだと思います。オーケストラもそうですが、芸術っていうのは値段が付けにくくて、そのあたりは仕方ないという気もしますが、ただ資料も出てきましたんで、確認作業をしたいと思います。

私も昨年とその3年前に家族で見ましたので、アートフェスティバルの来場者数に多分カウントされているんだろうと思いますが、ちょっと確認します。エリアごとに1作品ずつ計4作品ということで、四つ公募するということですが、それ以外に前は、大学生の作品とかいろんな方の作品があったように思うんですが、そういったものも含めての作品展示なのかどんな形態になるのか、そのあたりの詳細を教えてください。

黄田観光政策課長

作品の関係でございますけど、今回はシンボルアート作品につきまして募集提案をさせていただきまして、シンボルアート作品以外の作品の募集は実施しないこととしておるところでございます。

長池委員

募集はしないけれども展示はするというのでしょうか。

黄田観光政策課長

現在のところはシンボルアート作品以外の作品の展示についても実施しないところです。

長池委員

じゃあシンボルアートと言われるものが四つ、その二つのエリアに展示されるというだけのフェスティバルということでしょうか。

黄田観光政策課長

作品につきましてはシンボルアート作品がそれぞれ展示されますけど、それにあわせて、子供たちを対象としたアートづくりのワークショップなど参加型のイベントとか、公募によるライブパフォーマンスなどの関連イベント等を実施するという形で考えているところでございます。

長池委員

作品は四つということにして、あと周りでイベントやワークショップといった、お祭りでいう夜店みたいなものをして、アートフェスティバルというわりには何か作品も少ないなあという感じがしております。じゃあこの6,000万円で二つということは四つに対して1億2,000万円ですから一つ3,000万円の公募ということであるのかということと、先ほど、対象となる会社というか制作者が、全国で四つぐらいあるって聞いたんですが、その四つの作者にそれぞれやらせるとかどういった形で発注するのか。

黄田観光政策課長

今回シンボルアート作品につきましては、それぞれ4エリアで1作品ずつで計4作品になるんですけど、一括発注という形で、エリア間のばらつきやレベル差をなくして、全体としての統一感をもたせる。それからまた、まとめて発注することでの経費節減を図る目的で、4作品一括で募集提案をすることとしております。

長池委員

ということは、一つの作者が四つのエリアに一つずつ作品を作ってもらおうというのを、一括して公募するということだと認識しましたが、これは同じところに四つ発注したら同じような作品が四つ各エリアにあるので、私はできたら四つ違う作者のが見たいという、これは個人の感想でございます。私は建築土木の入札システムがよく分かりませんが、3,000万円の一つの工事を四つにまとめて1億2,000万円で発注するようなものだと思うんです。それによって単価が下がるというのはわかるんですが、この単価自体がよく分からない芸術の中で、本当に下がっているのかよく分からないのですが。これはチームラボが去年中心になってやっていたと思うんですが、チームラボ以外にも対応してもらえるんですかね、もう決まっているんですか、チームラボで。

黄田観光政策課長

昨年のフェスティバルにつきましては、チームラボの作品が展示をされていたところでございます。今回につきましては、やはりシンボルアート作品につきましては、フェスティバルの目玉となるということで、国内外からの観光客誘致が図られる、それから双方向で参加できるような作品ということで、先ほど私どもが把握しているのは、国内で4社程度と申し上げましたけれど、そういう形で広く募集提案していただけるように、お願いしてまいりたいと考えております。

長池委員

広くと言っても、全国で四つぐらいしかないってことですし、一括で発注するって

いうし、何かもうチームラボに決まっているような雰囲気もありますんでね。別にチームラボを否定しているわけじゃないんですが、私からしたら、去年でチームラボさんののは、随分堪能しましたんで、違う方の作品みたいなのとかいう思いもあります。ですんで、何で一括で発注するのかっていうのを、もう少し教えていただけたらと思います。これは実行委員会で決めたことなのか、実行委員会が承認したのか、よく分かりませんが、そのあたりの根拠といいますか、分けて発注すべきっていう意見はなかったんですかね。

福田商工労働観光部次長

先ほどのシンボルアートの一括発注の問題でございます。去年は芸術監督というものをおきまして、そこで全体を統括して、統一感を図ったというようなことをやっております。

今回につきましては、その芸術監督というものをおかないということもございまして、この4エリアの作品を一括して一人の作者に発注することによって、各エリアの特異性っていうのも提案もしていただきますし、その特徴を持たせた四つのエリアの統一感っていうものも持たしていこう、ひいてはフェスティバルの全体の芸術的な役割っていうものも、このシンボルアートの作者にお願いができたという観点で、1か所ずつの発注ではなく、4か所の一括発注というようなことにしております。

長池委員

アートフェスティバルと言えば、デジタルだけでなく、どんな美術館に行こうが何に行こうが、1人の作品しかないというのは、チームラボさんがお客さんを呼べるのか、チームラボさんの名前使って客を呼ぼうしているのかと思いますが、何かふに落ちないところがあります。これがチームラボでなかったらすごいと思いますけれども、あんまり一つの固有名詞を出し過ぎるといけないんで、謝らないといけないときは謝りますが。それとせっかくエリアを広げたけども、そこも統一感を出すということはどうなのかと思います。これに関しては、芸術性とか趣味の問題になるんで、私はそれに対しては反対という気持ちを持っています。

もう1個反対なのは、他の作品がないということでもあります。やはり私なんかは、いろんな作品があって初めてフェスティバルかなあという気もしますし、ちょっとそういう意味で、特に岡田委員がおっしゃってましたその子供たちに、もっとこう触れ合う機会とか、ひとつの方向性としては子供たちからも作品を募集したりすることによって、本当にLEDとか最新技術を学ぼうとする子供たちを、徳島県からたくさん輩出するという方向性が見えてくると思うんです。

多分今回、急な補正予算ですから、降って湧いたような話もあるんですが、今後そういうことを、きっちりと方向性の中に組み入れていただきたいと思います。

どれだけ最先端のすばらしいものを子供たちに見せたところで、やっぱりやらせてみるとかが重要なんではないかと思ってましてね、今からでも1億2,000万円のうちの2,000万円ぐらい、そっちのほうに使っていただけんかという気持ちはあります。

そういうのが、財産として残ると思うんです。残るというキーワードですが、これは四つの作品っていうのは、その期間が終わったらどうなる予定なんですか。

黄田観光政策課長

作品につきましては、先ほども積算のところで、昨年のフェスティバルの実績を踏まえて、今回1億2,000万円という形で積算を御説明させていただきましたけど、昨年も、この作品につきまして全てがレンタルであったということでございますので、今回につきましても、国内外の観光誘客が見込める、またインタラクティブなLED、最新のLEDデジタル作品を想定しておりまして、今のところはレンタルということを考えております。

長池委員

じゃあ買うのではなくレンタルということですね。これも、もったいないという気持ちもしますが、問題が芸術作品でございますんで、値段に関してはもうこれ以上は。

例えば、その残るという意味でね、やっぱり先ほども議論ありましたけど、こういった機会をチャンスに変えて、例えば、徳島市の中心部を周遊できるような交通システムであったり、そういったインバウンドの話もありましたけれども、そういうものの一つのステップアップするチャンスとして今回をしっかり捉えてほしいんです。

例えば、この収支予算案を見たらエリア間移動が300万円、これは多分実費だと思うんです。300万円といえは、ぎりぎりに削ってこんな感じだと思うんですけど、私なんかこんな予算にもう1桁ぐらい乗っけて、それこそレンタサイクルを1,000台ぐらい購入して、置いておけば阿波踊りのときでも、それこそ、その関西ワールドマスタースゲームズのときでも使えますし、こういうときにこそ、チャンスなんですから、あとに残るようなものに予算を充てるとというのが、私は多少県民には説明しやすいと思います。アート作品を借りるのに1億2,000万円も出してですね、自転車とかバスとか、これは輸送費なんでしょうけど、これに300万円しか使わないというたら、あとに何も残りませんので、何か今からでもそんなことができないのかなと思います。

特にインバウンドとか外国の方は、わりと自転車とかを利用してこう街中走ったりする人が好きみたいです。ですんでそういう外国人誘客っていうのを考えたときに、レンタサイクルってありますけれども、実際にレンタサイクルを購入するという施策はあるんですかね。

黄田観光政策課長

今のLEDの関係でございますけど、今回このフェスティバルを機会に捉えて、周遊ルート等の調整というお話がございました。

まずは、今回のフェスティバルにつきましては、国内外から多くの方に来ていただくように、情報発信をしてまいりたいと考えておりますし、徳島県にそれで来ていただいた方が、このフェスティバルもそうですし、徳島の街中等を十分楽しんでいただけるような、周遊性の部分につきましても検討してまいりたいと考えております。その手段として、一つはレンタサイクル等の移動手段の充実というのも図ってまいりたいと考えております。

長池委員

あのね、ちょうど新町川の周遊をしていて、私もその4年ぐらい前には乗りました。か

なり安いお金で乗せてくれて、これは便利だと思いました。あんなところにもう1,000万円ぐらいあげたらいいんですよ。私はそっちのほうが残ると思うんですね。もうこれ以上言いませんが、要は現場で一生懸命している人、先ほども岩丸委員がおっしゃってましたけども、そこにそんな金があるんだったら、こっちにくれよっていう人もいるわけですよ。

今回のこういうイベント、オーケストラもそうですけれども、そこに理解を得るっていうのは、皆さんが思っている以上に努力しないと理解を得られないと思います。阿波踊りみたいに伝統文化であれば、皆さん子供の頃から親しんでますから、あんまり言わないんですけども、こういう最先端のことをやろうと思ったら、それこそかなりの工夫と創意が必要だと思います。実行委員会が8月に行われるということですが、それまでにしっかりともう練り上げて、私は個人的には岡田委員を実行委員会に入れていただいたら、かなり良くなるのじゃないかなと思うんですが。

何か有名な人の作品をばかんと四つ置いて、周りで夜店開いてというのではね、作品がよくても設営がよくないですよ、そのぐらいの感覚を厳しく持っていただきたいとおります。

後は、発注したところが税金をきちんと払っているかもチェックしていただいてね。

これは要望でございますんで、回答はいりません。

これは関連でないんですが、質問しようと思っていたことなんで、一つ聞きたいんですが、イオンモール徳島がオープンしまして、がらりと変わりますけれども、あんな狭いところで大丈夫なのかとか、渋滞がすごくあるのではないのかとか、かなり言われておりましたが、現在のイオンモール徳島の周辺の渋滞であったり、そもそもイオンモール徳島にお客さんが行っているのかっていうのを、県はどういうふうな認識でいらっしゃいますか。

山川企業支援課長

ただいま、長池委員からイオンモール徳島の渋滞の状況、それから現在の客足ということでお伺いしてます。

イオンモール徳島のオープンに伴いまして、非常に渋滞が懸念されたところでございまして、本県としましてもイオン側に対しまして、十分な対策をとるよう通知させていただいていました。

そうした中で、店舗進入の専用レーンの設置でありますとか、周辺市道への店舗への案内表示板の設置、適切な交通誘導、それから隔地駐車場をできるだけ利用していただいてのシャトルバスの運行、それからプレオープンへの来店客の分散とかを行った結果、週末や夜間には少し混雑はあったんですが、今のところ目立った交通渋滞もなくオープンから2か月がたっているところです。こうした渋滞については、今後とも警察本部や、県土整備部など関係機関と連携しまして、適切に対策を施してまいりたいと思います。

それからもう1点、イオンモール徳島の現在の客足なんですけれど、イオンモール徳島さんにおきましては、モノの消費からコト消費という、ようするに滞在していただくというようなコンセプトのもと、運営をされております。年間700万人という客足を想定目標とされておまして、現在1月当たり100万人とお聞きしておりますので、順調な滑りだしであると聞いております。

また、この出店におきましては、雇用者が2,400人生まれておりまして、地域における仕事づくりの後押しになっていると認識をしているところでございます。

長池委員

私が聞く限り平日なんかは、思ったより余り渋滞していないということで、聞こえてきておりましたし、県もそういうふうなつかみ方をしているのかなと思いました。ただ昨日や一昨日なんかは、随分と混雑をしていたみたいで、駐車場は入れたけど、出られないという人がおりまして、何か対策はこれから考えていくんだらうと思います。

その2,400人の雇用の場ができるというのは、いいことだとは思いますが、よく聞くのは、イオンモール徳島ができて、人の雇用の場が増えて、イオンモール徳島が割と最初ですから、ちょっと高めの時給で募集したおかげで周辺といいますか、徳島県全体のパートとかアルバイトを募集しても、なかなか来てくれなくなった、それで、来てくれないから他のお店も高めの時給を設定すると、1人のパートの時給を100円上げたら、最初からいた人も上げないと不公平になりますんで、結局そういった小売店を中心に人件費が、ちょっと上がっているのではないかとということで、更にイオンモール徳島が集客しますんで、小売業さんのほうが、売上げが落ちているのではないかと、人件費が上がって売上げが落ちるということは、かなり経営を圧迫しているのではないのかということが予想されます。そのあたりの周辺業者への影響であったり、小売業に対して現状と、さらにはもう既にそういう対策といいますか振興策を、どのようにお考えかをお聞きしたいと思います。

山川企業支援課長

ただいま、イオン出店に伴う周辺事業者への影響、それから対策ということで御質問を頂きました。私ども商工労働観光部のほうで、このイオン出店に伴う影響調査をヒアリングさせていただいたところでございます。そうした中で、長池委員がおっしゃいましたように、パート派遣従業員の賃金アップ、それから確保が厳しくなった、それからイオンモール徳島にテナントが移って空き店舗ができたとか、あるいは売上げの減少、それから渋滞を懸念してのその周辺にもうお店が来なくなったということも聞いているところでございます。

ただ現在のところオープンの特的な影響なのかもしれないということも各店舗さんからもお話を伺ってまして、より一層、これをチャンスと捉えて商品やサービスの差別化を図る、あるいは、中長期的にお店をどうやっていくかということを考えなければいけないと、そういう販売戦略の強化などについて前向きに取り組む動きを頂いているところでございます。従いまして、引き続き地元商工業者への影響、経済の影響などを注視して対処してまいりたいと考えております。

また、その対応策におきましては、現在のところ深刻な売上げの落ち込みなどは聞いていないところで、特段はありませんが、私ども企業支援、あるいは経営支援という立場におきまして、こまめに各事業者さんの話をお聞きしまして、課題抽出と解決策を提示しますとともに、専門家やアドバイザーなどを派遣しまして今後の事業発展、あるいは、経営革新計画等を指導させていただく中で、きめ細やかな支援を行っていった、例えば、低利の

融資制度を紹介するとか、国や県の施策を交えて支援できたらと考えているところがございます。

長池委員

常に意識を、アンテナを張っておいてほしいというのが最後の要望です。大きな動きですから、2,400名もの雇用の場が、ぱんとできたわけですから、これだけ小さな街ですんで、少なからずとも、そういった中小企業を中心に影響がないのがおかしいと思う。多分、ここにいらっしゃる方は、現場の声を直接聞くということよりも、わりと社長さんとか、偉い人の話は直接聞くんだと思うんですけど、現場でレジ打ちしているおばちゃんの声とかは、なかなか聞けてないのではないかなと思います。私はそっちのほうが、生の声だと思いますんでね。やっぱりお店に行って、おばちゃん最近どんなんであってというふうに、これはここにいらっしゃる方だけじゃなくて、商工労働観光部全職員が意識を持っていただきたい。これは部長から、そういうふうに意識を持てよ、と言うていただけたら、これで済むんですが、多分、部長さんなんかは、それこそ岡本委員みたいに、商工会連合会の会長さんのお話はよく聞くことはあると思うんですが、岡本委員の下には何千何万という現場で働いている人がいまして、その声をしっかり直接聞くという姿勢を持っておかないと、これ知らない間に何だか経済がおかしくなって、小さい店がどんどんつぶれてきたぞといって、数字にあがってくるのは何箇所も後ですから、机の上とかパソコンで調べるよりも、もっと生の声をしっかり意識して聞いていただきたい。

それを常に反映させて、次の手を考えるっていう姿勢を、是非持っていただきたいという要望で締めたいんですが、恐縮なんですが、部長さん、そのあたりよろしくお願いします。

朝日商工労働観光部長

ただいま、長池委員から現場の生の声というお話を頂いております。私ども商工労働観光部は、現場のお商売をされている方、あるいは製造業にたずさわっておられる方、こう生き物といいますか、経済を扱っている部局でございます。

御指摘のように常に、現場の声を意識していくということは、大変重要なことだというふうに考えております。全ての方の御意見を聞くことは難しいんですけれども、できるだけそういう意識をもって対応していくということで、聞こえてくることもあろうかと思っておりますので、私どもこれから肝に銘じて頑張っていきたいと思っております。どうか、今後ともよろしくお願いを申し上げます。

長池委員

今、岡田委員がおばちゃんて言うたらあかん、お姉ちゃんって言いなさいって言われたんで、いや言葉ってね、大事でございまして、さっきのは訂正させてもらって。

それともう一つ、さっき言い忘れたんですが、情報発信の件ですが、もうフェイスブックって古いらしいです。あるところで聞いて、私もがく然としたんです。フェイスブックで発信すればある程度広がるのかと思ったんですが、もう今の20代とかは、フェイスブックとかはしていないらしいんで、やっぱり、その辺りの感覚っていうのも、しっかり若い

職員に聞き取りして、今何が一番こう波及するのに重要なのかとか、速いのかっていうのもね。ツイッターも古いんじゃないんですか。インスタグラムですか、それも最後補足で付け加えさせていただいて、質問を終わりたいと思います。

来代副委員長

商工労働観光部関係の付託議案は、全て認めないかんのですけども、その前にこれはやっぱり委員会として一つお願いしたいんですけどもね。

今、岩丸委員が質問していたけども、1日3万2,000人、10日間32万人で1億6,000万円、県からは8,000万円出るんですけども、よく考えたらこれは阿波踊りでは、1日35万人、4日間で135万人で、恐らく900万円ぐらいしか補助金を出していないでしょう。135万人で900万円。32万人で1億6,000万円、これは、やっぱり経済効果なんかも大いに意見あるところなんですよ。

それともう一つは、LEDと言えば日亜化学、日亜化学と言えばLEDでしょ。恐らくこれ日亜化学には、何の相談もしてないし、日亜化学が入っていないでしょ。

それから徳島県には、マチアソビ。これだけ全国から人が集まってくるのに、マチアソビの関係者も、選考委員にも実行委員にも入っていないでしょ。入ってますか。入っていないでしょ。

だから、もうこれは質問とかではなく、今、全国では加計学園や森友学園といった首相のトップダウンが大きな話題になってる、徳島県でもとくしま記念オーケストラでいろんな話題を呼んでる。ここはやっぱり皆さんがしっかりしてくれなければ、県民は国と同じように考えると思うんですよ。

だから今こそ、皆さん襟を正して心を引き締めて、夢と計画は大きくやってもいいけども、いざこの費用とか予算に関しては、一部の人間がやるのではなく、みんなが納得するような運営であり、この選考委員にマチアソビの関係者を入れるとか、日亜化学にはどうしても応援してもらおうとか、そういったきちんとした発想のもとにやっていただかないと、私は厳しいと思います。その答えを部長からもお願いしたいし、委員の皆さんにお願いしたいのは、今回は特に、委員会全体としても、このとくしまLED・デジタルアートフェスティバル問題に関しては、きちんとやっていただくよう、意見を申し添えていただかないと、なかなか賛成できないと思うんですが、委員長よろしくお願いします。同時に部長どうですか、その日亜化学や、マチアソビの関係者を入れるという案については。

朝日商工労働観光部長

ただいま、来代副委員長さんから、貴重な御提案を頂いたところでございます。私ども、公募については、選定というのが非常に重要であると考えているところでございます。今御指摘のあった、例えば専門的知見を持った方に選んでいただき、きちんと予算の執行ができ、効果が上がるような仕組みといったようなことにつきまして、御提案の趣旨を踏まえまして、これから、しっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

来代副委員長

選考委員に、日亜化学とマチアソビの関係者は。

朝日商工労働観光部長

例えば、日亜化学そのものがどうかっていうことがあるんですけども、御指摘いただいたように、日亜化学、あるいはアニメという話もございましたが、専門的知見の持った方を含めて、幅広く考えてみたいと思いますので、どうかよろしく願いを申し上げます。

岩佐委員長

来代副委員長からも御指名を頂いたんですけども、事前委員会のときから、今回のとくしまLED・デジタルアートフェスティバルの予算案というのが出てきまして、そのときにも申し上げたんですけども、期日だけが決まっていてその内容が判断できない。そういうことで、今回、企画運営委員会でこういう内容が上がってきたわけでありましてけれども、我々経済委員会としても、上がってきた予算案をこれから審査するに当たって、やはりその内容っていうのがしっかり分かるもの、その判断ができる材料っていうのをしっかりそろえていただく必要っていうのが、当然あるかと思います。

今後においてもですね、この委員会に、それぞれ予算を上げてくる段階で、しっかり内容が判断できるように、そのような内容というものをを出していただきたいと思います。

また、このとくしまLED・デジタルアートフェスティバルの件においては、各委員からいろんな御意見がありました。そのそれぞれの委員さんの思いであったりとか、県民のみなさんの思い、その代表であると思います。長池委員もおっしゃってたんですけども、新規のことを始めるに当たっては、産みの苦しみということもたくさんあるかと思っていますけれども、やっぱり形となって次へ残っていくことっていうのが、大変重要だと私も考えております。

今の話で、今年度これからまた運営委員会か実行委員会などでも考えていくということなんですけれども、しっかりまずイベントが成功に収まるように、それでまた、それが次へつながるように、更に来年度以降も開催をしたいというような話もあります。

例えば、これで今年度が終わったとして、じゃあ来年度も行いますよというときに、今回と同じような提案っていうのがあれば、それはなかなか委員としても賛同できるものではないと思います。

今回のイベントをこれから形にしていく中での、その審査について、内容にしてもそれが高いのか安いのか、それが判断できるっていうことを、しっかり我々委員にもまたフィードバックをしていただきたいと思いますし、当然、先ほど委員からも話があった、例えば形に残るようなもので、次の、また他のイベントに使えるようなものをというのであれば、この金額では安いんじゃないか、プラスしてもうちょっとうちょうとこう使ったらどうかっていうような提案も逆にあるのかなとも思います。

しっかりと来年度以降につながるような、形として残るイベントとなることを、切に、私からも要望をさせていただきたいと思います。

（「委員会として、ものを申し上げたらいいん。」という者あり）

委員会としてもですね、まず今回の進めていく上での透明性の確保であったり、その収

支を含め報告をしていただきますよう、切に、要望しておきます。

朝日商工労働観光部長

ただいまは、岩佐委員長さんから適切な御提言も頂いたところでございます。私どもは、この予算、効果が上がるように一生懸命取り組んでまいりたいと考えておりまして、議会への御報告も適宜適切に行ってまいりたいと考えているところでございます。この効果につきましては、きちんとフィードバックできるような形で有効に使ってまいりたいと考えておるところでございまして、この効果は、しっかり分析をした上で、今後様々な角度から検討したいと考えておりますので、どうかよろしく願いを申し上げます。

岩佐委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

岡田委員

1点意見書を出していただきたいと思いますので、説明させていただきたいと思います。協同労働の協同組合に関する法律の速やかな制定を求める意見書というのを、委員会から出していただきたいと思います。近年の社会経済構造の急激な変化は、様々な課題が我が国に投げかけられております。多様な生き方とそれを支える新たな社会システムの構築が求められている現状です。とりわけ、地域の様々な問題を解決するに当たって、行政だけでなく住民自身の力を出していただくということに大きな期待がかかってきております。

このような状況の中、住みやすい地域社会を実現するため、地域の問題は地域住民が自ら解決することを目指し、NPO法人であったり、協同組合、ボランティア団体などが、様々な非営利団体が、今現在事業展開をしておりますが、これらの同じようなグループであります協同労働の協同組合というのがございますが、これは組合に参加する人が全て協同で出資し協同で経営し協同で働く形をとっており、働くことを通じて人と人とのつながりを取り戻し、地域の再生を目指す活動を続けている団体がございます。そして多くの社会問題が顕在化する今日、その解決の有効的な方法として、この組合というのが大きく注目されているところです。

しかし、今現在では、この協同労働の協同組合には、法的根拠がないため協同組合としての契約ができない。あるいは、社会保障の負担が働く個人にかかるなどの問題を抱えております。欧米各国においては、既に労働者協同組合としての法制度が整備されており、就労の創出や地域の活性化、少子高齢化への対応を図るためにも、早急な法制化が求められているところであります。

実際、協同労働をしている団体の事業内容には、介護福祉サービスや子育て支援、農村レストランであったり、清掃請負、オフィスビルの総合管理など幅広く、また若者や女性、高齢者が集まって働きやすい職場を自分たちでつくるっていう活動をされております。多様な働き方のひとつとしても期待が高まってきております。

よって、国においては、今日の社会の実情を踏まえ、多様な働き方を可能にする環境を図る観点から、協同労働の協同組合に関する法律を速やかに制定するよう強く要請していただきたく、意見書を出していただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

岩佐委員長

ただいま、岡田委員から、協同労働の協同組合に関する法律の速やかな制定について、徳島県議会会議規則第14条第2項にもとづき、国に対して意見書を提出願いたいとの提案がありました。本件については、いかがいたしましょうか。

杉本委員

ちょっと、反対するわけでないんですよ。私は50年協同組合やってきてたくさん知ってますけど、協同組合っていうのはそんなにたくさんいるんだろか。

岡田委員

杉本委員がおっしゃる協同組合は農業協同組合という部類ですね。そういう組織ではなくて、NPOとか、あと会社であるとか、その法人と名がつく諸般団体があるんですけど、その中に今、グループの中に入っていない、その協同労働の働く方たちが集まって組織している働く組合というのをつくられてるんですけど、その方たちっていうのは、法的な根拠が今ないので、お金を借りるにしても全部個人でお金を借りる、個人で申請する、個人で何とかするっていう、その代表になられる方が代表なんですけど、でもみんな平等なんですね。そのグループで働いている人みんなそれぞれが平等だから、その人一人に負担がかかるっていう組織をつくってほしいのではなくて、みんなが同じように負担を負いながら、その仕事をやっていきたい。それで、先ほども説明しましたが、やっぱり地域に住んでる方が地域をよくしていくための活動をしていきたいという組織体をつくって、既にされている方たちがいらっしゃって、ただでも、杉本委員おっしゃるように、協同組合なら法的な支援がありますが、そういうものがないから、そういうのも認めて、法的な支援をできるような意見書をお願いしますという話です。

岩佐委員長

それでは、本件につきましては、いかがいたしましょうか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、委員各位にお諮りいたします。

この際、経済委員長名で意見書案を閉会日に議長宛て提出いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、さよう決定いたします。

来代副委員長

委員長、もう一つお願いします。

これもね、私も思っていたんですけども、このところ住民からものすごい要望があり

まして、今、森林の間伐をきれいにしないと、原生林化が進んで、それがひいては有害鳥獣がどんどん増えて、今畑とか農作物まで影響を与えている。ここでとにかくこの森林をきちんと守ってほしいがために、今国と一緒に、国が行っております伐採から植林保育といったところまでの一貫した森林行政を推進するためには、是非とも森林環境税を創設して、そして国、県、市町村を挙げてこの森林保全に取り組んでほしいので、意見書を出してほしいという御意見がありました。例えば、多面的機能を持つ森林は国民共有の財産であり、国を挙げて継続的な森林整備保全に取り組むといった安定財源の確保に向けての森林環境税を早急に創設してほしい。こういう意見が出ておりますので、もし皆さんがよろしければ、経済委員会としても、この意見を是非とも国に上げてほしいと思うんですが、委員長、取り計らいよろしくお願いします。

岩佐委員長

ただいま、来代副委員長から、森林環境税の早期創設を求める意見書を提出願いたいとの提案がありました。本件については、いかがいたしましょうか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、委員各位にお諮りいたします。

この際、経済委員長名で意見書案を閉会日に議長宛て提出いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

異議なしと認めます。

さよう決定いたしました。

次にお諮りいたします。

意見書の文案はいかがいたしましょうか。

（「正副委員長一任」と言う者あり）

それでは、文案は正副委員長に御一任願います。

それでは、これより採決に入ります。

お諮りいたします。

ただいま審査いたしました商工労働観光部関係の付託議案は原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

異議なしと認めます。

よって、商工労働観光部関係の付託議案は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第1号 議案第2号

以上で、商工労働観光部関係の審査を終わります。

次にお諮りいたします。

委員長報告の文案はいかがいたしましょうか。

（「正・副委員長一任」と言う者あり）

それでは、そのようにいたします。

次に、当委員会の閉会中、継続調査事件についてお諮りいたします。

お手元に御配付しております、議事次第に記載の事件については、閉会中に調査することとし、その旨、議長に申し出たいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたします。

次に、当委員会の県外視察についてでございますが、ただいまの予定といたしましては8月2日から8月4日までの3日間の日程で観光振興や農林水産業振興に資する施設等を調査するため、福岡県、熊本県の関係施設を視察したいと考えておりますが、よろしゅうございますか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、さよう決定いたします。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（12時10分）